

53 兵士の持つ棒は、槍なのか、旗竿なのか。

—嵐—

2023

真鍋友範

1 嵐の謎は解けたのか。

嵐の謎は解けたと認識している。ただし、細かい部分の修正が必要となる場合はあるかもしれない。

それは、兵士の持つ棒は、折れた槍か、折れた旗竿のどちらか、という判定だ。

これまでは、折れた槍と小生は認識していたが、いくつかの理由で、現段階では、【折れた旗竿】との認識に至った。

根拠をあげて論証したい。



*兵士のもつ棒は、折れた槍か、旗竿か

この判定に影響すると考えられるヴェネチア派の先代画家カルパッチョ作品《聖ウルスラの殉教と埋葬》を見よう。



《聖ウルスラの殉教と埋葬》 ヴィットーレ・カルパッチョ

* 中央の兵士の持つ旗竿に注目

フン族の兵士は、異教徒である聖ウルスラ一行を排除し、勝利したことの象徴として、軍旗らしきものを誇らしげになびかせている。

《嵐》を注文したヴェネチアの貴族に限らず、ヴェネチア在住の人々ならアカデミア美術館にあるカルパッチョの大作《聖ウルスラの殉教と埋葬》を見ていたものと考えられる。

したがって、嵐の折れた旗竿を見た貴族は、それが兵士の死を象徴していることを、暗黙に理解した筈だ。

また、ほぼ同じ時期にジョルジョーネの描いた《カステルフランコ祭壇画》の中の追悼対象の兵士の様子も見てみよう。



《カステルフランコ祭壇画》

この作品でも、兵士の持っている棒状のものは、先端部は矢じり状の金属装飾が施された旗竿を持っているように見える。

槍のようにも見えるが、槍ならばもう少し頑丈な材質でないと、剣の一撃で一刀両断されそうだ。やはり旗竿ではないか。

結論として、これら2点の兵士の描写で、共通しているのは、旗竿である。

嵐で折れた旗竿をもつ兵士は、背部の折れた円柱建築物と相まって、【兵士の死】を象徴している。

カルパッチョの《聖ウルスラの殉教と埋葬》における中央の【旗竿をもつ勝利の兵士】は、見事にジョルジョーネの《嵐》に描かれた兵士の【折れた旗竿を持つ敗戦の兵士】の表現に引き継がれていたのだ。